

2010年8月10日
株式会社パスコ

(事例紹介)

「読谷ユビキタスガイド」8月よりサービス開始 ～観光客の増加、滞在型の村づくりを目指して:沖縄県読谷村～

総務省は、ICT 関連技術を効果的に活用して、地域住民の利便性向上、安心・安全を実感できる街づくりを目的に、地域の医療、福祉、防災、観光など様々な分野で「ユビキタスタウン構想推進事業(平成 21 年度)」を推進してきました。

今回サービスを開始した「読谷ユビキタスガイド」は、読谷村や商工会、観光協会が中心となって組織された地元協議会、および村内の関係団体・企業、大学の産官学が連携して活動する「読谷村ユビキタス村づくり事業」として実現しました。この事業では、読谷村が目指す“観光客の滞在性や回遊性向上、ならびに読谷村コミュニティバス(鳳バス)の利用促進に向け、沖縄県では初めてユビキタスシステムが導入されました。

パスコは、今回のシステム構築において、サービスの企画、システム開発、コンテンツ制作、ICT 人材育成などを行いました。

※参考

「ユビキタスタウン構想推進事業」の総務省報道資料(2009年12月15日)

<http://www.soumu.go.jp/soutsu/chugoku/hodo/2009/2009jo083-1.html>

■読谷村の概要

読谷村は、沖縄本島の中部、西海岸の東シナ海にカギ状に突き出た半島に位置する人口約3万9千人の村です(日本で2番目に大きな村です)。村内には美しい珊瑚の海、県内有数の景勝地である残波岬、さとうきび畑、世界遺産の座喜味城、さまざまな体験施設など、美しい自然と豊かな伝統文化に育まれたところです。また、読谷村といえば、沖縄で最も人気のあるお土産の一つである、紅いもタルト発祥の地でもあります。

■「読谷ユビキタスガイド」の特長

読谷ユビキタスガイドでは、村内の主要観光コースに、電波マーカと呼ばれる装置を60台取り付け、場所ごとに固有の電波信号(ucode)を発信することで観光情報を提供する仕組みを構築しました。利用者が、ユビキタスコミュニケーターと呼ばれる専用携帯端末をもち、観光名所の近くや途中の道でucodeを受信すると、端末には自動的にその場所に関する情報が提供されます。このガイドシステムでは、写真や動画、音声による観光案内、ポッドキャスト形式の音声番組、村内の店舗情報、地図情報が提供され

ます。また、店舗などがインターネット経由で、自由にコンテンツを更新するためのツールも整備し、イベント情報や特売情報など“旬な”情報を提供することが可能となっています。なお、情報は日本語だけではなく、英語、フランス語、そして今ではほとんど話されなくなった沖縄語（沖縄訛りとは違います）で提供し、さまざまな国の人に読谷の素晴らしさを伝えることを目指しています。

ユビキタスコミュニケーターでの情報提供に加え、携帯電話による情報提供サービスも同時に行っています。村内のバス停や案内看板、店舗など配置した QR コードタグを読み込むことで地元に着した情報を日本語または英語で閲覧することができます。現在は約 100 箇所の情報を見ることができますが、今後はより多くの店舗や観光施設などに広めていくことになります。

読谷ユビキタスガイド構築にあたっては、地元の方々が中心となって素材収集からコンテンツ作成を行うことで、観光ガイドには載っていない意外な事実、歴史の貴重な一コマ、そして生の声など、ユニークで面白い情報提供が実現しました。また、この作業を通じて、読谷村の方々が自分たちの故郷のよさを再発見することにもつながりました。

【専用端末(ユビキタスコミュニケーター)版】



ユビキタスコミュニケーター

左上:観光案内画面

左中:音声ガイド画面

左下:地図案内画面

【携帯電話版】



左:バス停に設置した QR コード

右:ケータイコンテンツ

本件に関する問い合わせ先:

株式会社パスコ インフラマネジメント事業部 技術二部 TEL 045-982-1431

(報道関係のお問合せは 広報担当 TEL 03-3715-1048 まで)